

# 川崎医療短期大学 広報誌 No.102

## 特集

### 川崎医療短期大学の風景

— こだわりの一品が伝える歴史・生活 —

- 平成30年7月豪雨における川崎医療短期大学の対応について
- 平成30年度第1回公開講座報告
- 保健医療福祉概論
- 日本語に関する取り組み
- 同窓会活動
- 川崎エコアクション
- 新任教員紹介
- インフォメーション

# こ だ わ り の 一 品



川崎医科大学附属病院での実習風景  
— 赤ちゃんの沐浴  
(撮影：二葉写真館)

# 特集

## 川崎医療短期大学の風景

ひとしな

### —こだわりの一品が伝える歴史・生活—



現在本学は看護科、臨床検査科、放射線技術科、医療介護福祉科、医療保育科の5学科で構成されています。そのうち、臨床検査科、放射線技術科、医療保育科の3学科は川崎医療福祉大学へその学びの場を移しているところです。今の短大の風景は、5学科の学生たちが日々学び、生活するなかで心に焼きついていくものとなるでしょう。今回の特集では、現在の短大の風景という観点から、各学科を代表する一品を紹介します。それぞれの物品は、これまでの各学科の歴史や学生たちの努力を見てきました。各学科こだわりの一品から、短大の風景を思い浮かべてみてください。

## 看護科

## ナイチンゲール像

ナイチンゲール像は、6階の看護科ショーケースの中に大切に保管されています。ナイチンゲールは、19世紀のクリミア戦争では負傷兵のために献身的な看護を行いました。イギリスに戻ってからは看護学校を設立し、近代的な看護教育を始めました。ナイチンゲール像は、夜も灯りを持って病室の巡回を常に行っていた彼女の姿を表しています。看護科では、2年生の時にナイチンゲール像から灯りを受け取る継灯式を行っています。

ナイチンゲール像は、看護師を目指すものに対し、職業の意識を高め、その責任の重さを自覚させる役割を担っているのです。

### 教員のコメント

初代のナイチンゲール像は、44年以上にわたって本学の発展を見つめてきました。しかし、残念なことに5年前に破損し、今は2代目になります。手に掲げている灯もLEDライトになりました。そんなところにも時の流れを感じます。

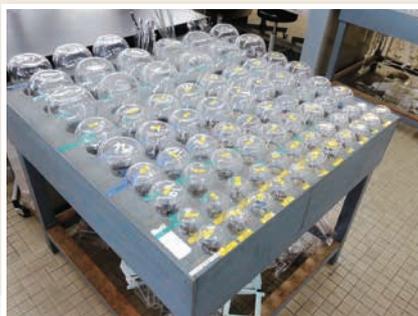
(看護科 清水 登紀子)



## 臨床検査科

## 器具掛け

卒業生が手作りしたもので、約36年間使用してきました。頑丈かつ大容量で、長年にわたり、実習で使用するメスシリンダーやメスフラスコなどのガラス器具を掛けておくことができました。器具掛けの裏には、製作者の氏名やコメントが記載されており、製作時の苦労がしのべられます。既製品でこれだけたくさんの器具を収納できるものがなく重宝してきましたが、学科が移る川崎医療福祉大学には持っていくことはできないため、今年で使い納めになります。



### 製作者のコメント

「大工になるために川短に入学したんじゃないよな」と言いながら、夜おそくまでかかって作った記憶があります。作品の裏に自分の名前を見つけて感激です。

(臨床検査科 陶山 洋二)



製作時の様子

## 放射線技術科 X線撮影装置

昭和52年4月の放射線技術科開設のために、昭和51年に設置されたX線撮影装置（島津製作所製）です。40年以上の長きにわたり、学生の実験・実習や教員の研究を支えてくれました。最近は老朽化で壊れる頻度が高くなりましたが、旧式のため修理に必要な部品も手に入らなくなってきました。このため、X線撮影に支障がない程度に補修し、だましだまし使ってきました。修理に来た業者からは、「おお、懐かしい装置ですね。まだ、現役で動いていますかあ」と驚きの声が出るほどでした。残念ながらつい先日、大きな故障によって使用不可能となり、現役引退となりました。



### 教員のコメント

本学科の卒業生にとっては、生まれて初めてX線を照射した思い出深いX線撮影装置だと思います。残念ながら放射線技術科の閉科とともに廃棄処分されることが決まっていますが、2,000人以上の学生を育ててくれた誇らしい装置です。

（放射線技術科 天野 貴司）



1980年頃の様子



## 医療介護福祉科 福太郎さん

福太郎さんは「男性入浴介護実習モデル」で、身長168cm、体重14kgのおじいさん人形です。平成13年の学科設立から現在に至るまで、学科の歴史を見ています。本学科には多くの卒業生が遊びに来ますが、今も変わらず介護実習室のベッドに鎮座している福太郎さんと一緒に写真を撮るなどしています。福太郎さんは防水タイプなので、特殊浴槽での入浴介護や洗髪、全身清拭のモデルとして、介護技術練習の一役を担っています。オープンキャンパスでは、受付ボーイの経験もあります。時には教員が白髪のカツラを借りて、おばあさん役を行ったこともありました。これからも本学科の歩みを見続けてくれる存在でいてほしいと思います。



### 教員のコメント

福太郎さんはまるで生きているような表情があり、材質も軟質特殊樹脂製で触り心地も柔らかいです。また、福太郎さんには同じ材質モデルで「福子さん」という奥さんがいます。ぜひ一度会いに来てくださいね！

（医療介護福祉科 三宅 美智子）



## 医療保育科

## パネルシアター

15年前の学科創設時、本学にあったのは絵本と紙芝居だけでした。現場で使う児童文化財が少なく、1期生が教員と共に制作したのがパネルシアターです。最初は既存の型紙を使って制作していましたが、次第に創作品も作るようになりました。丁寧に作られた温かみのある20セットのパネルシアターは、制作の見本として後輩たちに今も使われています。学生たちはその仕掛けを参考にしながら、1セットずつ作って実習園に持参するようになりました。オープンキャンパス等でも披露されたり、卒業生に貸し出されたりする医療保育科の財産です。

### 学生のコメント

パネルシアターを作るときは、明瞭な色づかいや、歌に合わせて表と裏の絵を替えるなど、工夫しながら作成しています。子どもたちが一緒に歌ってくれたり、「楽しかった」という声を聞くと、喜びや達成感を覚えます。そのような子どもたちの笑顔や喜ぶ姿を想像しながら保育教材を作成しています。(医療保育科3年 梶田 紗希)



## 学生寮

## メールボックス

学生寮のメールボックスの中には、郵便物だけでなく、学園や図書館からの連絡書類も入ってきます。日ごろ授業や実習で忙しい寮生に寮職員がなかなか会えないときには、寮職員からの連絡用紙も入ります。このように、メールボックスは寮生と学園や教職員との橋渡しをしてくれます。学科ごとに名前の台紙が色分けされていて、とてもカラフルです。色分けは学生寮が始まったころから続いています。携帯電話が普及していなかった時代には、いつもたくさんの手紙が届きました。保護者から毎日のはがきが届く寮生もいました。寮生が不在の長期休暇中には、手紙がメールボックスに入りきらないこともありました。卒業シーズンには、今も多くの寮生が記念写真を撮影する場所になっています。

### 寮生のコメント

病院実習と就職活動を並行して行わなければならなかったため、先が見えなくなってしまい、精神的にも肉体的にも疲れていたときがありました。そんなとき、メールボックスに高校3年生の担任の先生からの手紙が入っていました。「実習も就職活動も苦しいかもしれないけど頑張れ！」という励ましの言葉をいただき、何よりうれしかったです。(看護科3年 松崎 歩美)



## 平成30年7月豪雨における 川崎医療短期大学の対応について

今回の豪雨災害において各地で大きな被害が発生しました。岡山県でも、倉敷市真備町を始め各市町村で、浸水、土砂崩れなどの被害がありました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしております。

大雨警報が発令された7月6日(金)、JRが次々に運転停止となるなか、本学では、3時限目から休校としました。急なことでしたが、担任や科目担当者を通じて学生に伝え、ホームページやポータルサイトへの掲示によって、周知を図りました。翌7日(土)は、大雨特別警報が発令されたため、全学休校とし、予定していた公開講座や臨床検査科の会社説明会は中止といたしました。

9日(月)は、JRや主要道など本学への交通が寸断された状態でしたが、全学休校とはせず、実習などに配慮して学科対応とすることを決めました。この間、大学としては、学生教職員の安否確認、被害状況の把握に努め、この時点で、自宅あるいは実家が浸水した学生が6人(教職員3人)、通学困難学生が33人いることが分かりました。被災学生の教科書や制服について業者から無償提供の申し出があったほか、さまざまな支援が申し出られました。学園からは、自宅が被災あるいは通学が困難な女子学生には学生寮、男子学生・教職員については学園のレジデンスを無償提供することが伝えられました。また、断水地域が広がっていたことから、入浴希望者には女子寮の浴室、洗濯希望者には実習室の洗濯機を開放することにしました。

被災地へのボランティア支援については、川崎医療福祉大学ボランティアセンターが川崎学園4校の学生に呼びかけ、活動を続けています。学科単位では、看護科教員が倉敷市保健所からの要請で、看護系大学教員の一人として被災者の健康調査に参加したり、組織団体からの要請で看護業務の支援をしたり、医療介護福祉科教員・学生が倉敷東小学校やシルバーセンター後楽に支援に出かけしており、医療保育科の学生は、倉敷市からの要請によって岡田幼稚園において保育ボランティアとして活動しています。

今回の災害では情報の伝達が円滑に行われ、迅速な対応もできたことから、図らずも本学の連絡網が十分に機能していることが実証されました。一方で、休校発令については、やや遅かったのではないかと指摘もありました。授業時間の確保もあり難しい問題ではありますが、今後発生が予想される災害への対応に向けて、検討していきたいと思っております。

### 学生ボランティア活動

学生によるボランティア活動として、現地活動と募金を行っています。

川崎学園4校合同の現地活動を、川崎医療福祉大学のボランティアセンター主導で行いました。被災後の混乱で活動内容も明確でなく、締切直前の募集であるにも関わらず、本学の学生からも学科学年を越えて熱心な応募が多数あり、そのなかから初回の7月14日(土)に1人、7月21日(土)に5人が参加し、真備町で活動しました。

参加した学生は被災後1~2週間たっても復旧が進んでいない現状にまず驚き、泥を排除し荷物を運ぶという力仕事中心の過酷な活動を猛暑のなかで行いました。復興を優先するために、被災者の方たちが思い出の品の廃棄を決断される場面に度々直面し、学生たちも心を痛めました。1日中頑張っても全く作業がはかどった気がしない現実に向き合い、長期間にわたり心を寄せることの重要性を実感していました。そのなかで、自分たちが目指す職業を見つめ直すことができ、参加して本当に良かったと口々に話していました。

個人の現地活動では、2人の学生が活動届を提出しており、継続的に参加する予定です。

募金については、学友会が、7月23日(月)~27日(金)の期間に第1回目の募金活動を行いました。学生、教職員のご協力で多くの募金が集まっており、今後も継続して行う予定です。集まった義援金は日本赤十字社を通じて、被災地の支援に役立てていただくことになっています。

医療介護福祉科では、避難所の運営や真備町の高齢者施設「シルバーセンター後楽」へベッドメイク等のボランティアに行きました。高齢者施設では、施設職員も被災しておられ、関連施設の被災等もあり、施設の運営にも苦慮されていました。学生たちは、何が今必要なかを考えながら活動を行いました。

医療保育科では、被災した教職員および同級生宅の片付けの手伝いに加え、夏休みの幼稚園を使った託児ボランティアを毎週末に行いました。託児があることで家族が安心して片付けを行えるように、そして、被災地の子どもたちの笑顔を支えるために学生・教員が一丸となって活動しました。



真備町でのボランティア

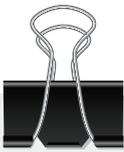


高齢者施設でのベッドメイク



医療保育科のボランティアの様子

学生生活委員会



平成30年度 第1回【放射線技術科】

## 公開講座報告

# 受ける前に知っておきたい放射線検査のこと！

講師 小野 敦 川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 教授

5月19日(土)に、平成30年度第1回川崎医療短期大学公開講座(主管:放射線技術科)を開催しました。病院で受ける画像検査は、一般撮影、透視、CT、MRIなどさまざまです。これらの検査を実際受けたら緊張や不安を感じます。また、CTとMRIは似た画像検査なのに何が違うのか。同じ胃の検査であっても、バリウムを使った胃透視検査と胃内視鏡検査のどちらを希望すべきかなど、さまざまな疑問も湧きます。今回は、画像検査の不安や疑問の解消を目的に講演を実施しました。以下に講演内容の一部を紹介します。



### CT検査ってどんな検査？

#### ●CT検査と一般撮影検査の違い

##### 一般撮影

- ①簡単かつ短時間で画像を提供できる。
- ②肺、心臓、腸管の病気が骨折、関節の変化などを診断可能。

##### CT検査

- ①外傷などによる骨折・脳出血の診断などに有効。
- ②一般撮影検査では分からない詳細な画像情報を取得可能。  
→胆のうや腎臓に集積する小さな結石、脂肪肝などの診断。
- ③造影剤を使うことで血管の異常や腫瘍の検査が可能。  
→大動脈瘤などの血管異常、腫瘍の有無と浸潤範囲の特定。

### CTとMRIの画像って同じように見えるけど、どこが違うの？

#### ●MRIの撮影原理

人間の体は、約90%が水素原子でできています。MRIは、この水素原子を使って撮影します。以下が撮影原理です。

- ①人体を磁場の中に入れる。
- ②ラジオ波を与える。
- ③ラジオ波を止める。
- ④水素原子がNMR(核磁気共鳴)現象を起こす。
- ⑤水素原子からの信号をコイルで受信する。
- ⑥受信した信号をコンピュータで演算処理し画像化する。

### 胃カメラ検査と胃透視検査ってどっちがいいの？

#### ●胃内視鏡検査(胃カメラ検査)と胃透視検査の違い

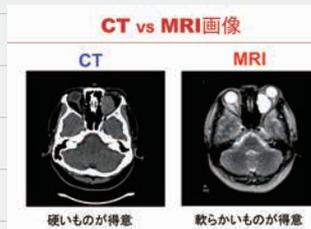
##### 胃内視鏡検査

- ①早期がん・食道がんの診断能が高く、確定診断ができる。
- ②放射線被ばくが無い。
- ③吐き気や嘔吐といった苦痛を伴う場合がある。
- ④検査後、数時間は飲食できない。  
→誤嚥(食物などが気管に入ってしまうこと)の防止のため。
- ⑤費用が高い。

##### 胃透視検査

- ①早期がんの診断能は内視鏡より低く、確定診断ができない。
- ②病変の全体像がよく分かる。
- ③手軽に検査を受けられ、費用が安く、検査時間が短い。
- ④微量の放射線被ばくを伴う。
- ⑤検査後は下剤を服用。

#### ●CTとMRIの画像の違い



CTは、頭蓋骨などの硬い物質(X線を吸収しやすい物質)の描出に優れます。一方、MRIは、水分(水素原子)を多く含む脳実質や腫瘍などの軟らかい物質の画像化に優れ、水素原子を持たない骨などは描出できません。

スライドは、眼窩内腫瘍の描出の比較です。MRIの方が腫瘍の大きさや範囲を明確に把握できます。

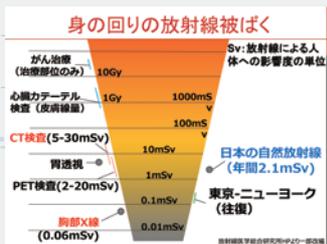
#### ●MRI検査を受ける前の注意点

- ◎MRI室に金属を持ち込むことはできません。(ガウンなどに着替え、身に付けている一切の金属を外し入室)
- ◎以下の方はMRI検査を受けられない可能性があります。
  - ①妊婦あるいは妊娠している可能性のある方。
  - ②脳動脈瘤クリップが埋め込まれている方の一部。
  - ③眼の中、体内の神経・血管の近くに銃弾などの金属片がある方。
  - ④閉所恐怖症の方。
  - ⑤入れ墨・アイライン・マスカラ・コンタクトレンズ。(やけどの可能性あり)

(放射線技術科 天野 貴司)

### 健康診断で胸部のレントゲン検査を受けたけどX線の被ばくが心配・・・

#### ●放射線被ばくによるリスクと患者利益



胸部X線撮影による被ばくは0.06mSv程度であり、これは東京-ニューヨーク間を飛行機で往復したときの宇宙線被ばく(0.2mSv程度)よりも少ない値です。また、日本で生活した場合、自然放射線によって年間2.1mSv

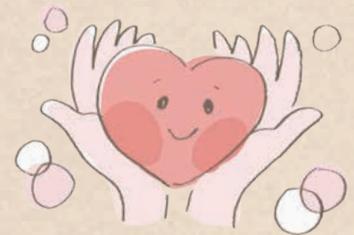
程度の被ばくを誰もが受けます。これらと比較しても、胸部X線撮影による被ばく線量が極めて少ないことがわかります。一方、CT検査は、5から30mSv程度あり、決して少ない数値ではありません。放射線を用いた画像検査は、被ばくによる有害な影響と患者自身の利益を比べ、利益が勝る場合にのみ実施されます。



# 保健医療福祉概論

報告

【講演日】平成30年6月25日（月）



昨年に引き続き「保健医療福祉概論」において、犯罪被害者のご遺族の方による講演会が開催されました。この講演会は、岡山県警察本部県民応接課、倉敷警察署等の協力により実施されています。本学では、犯罪被害者のご遺族が自ら語られる体験談を通じて、犯罪の当事者の方々が置かれた状況を知り、今の自分にできることや、寄り添えることについて、相手の立場に立って考えられるようになることを目指しています。今回の講師には、娘さんが2歳のときに、知人男性に殺害された女性をお招きしました。履修対象の看護科、医療介護福祉科の1年生のみならず、他大学の学生、教職員、川崎医療福祉大学の教員も加わり、約200人が聴講しました。

ご講演に先立ち、警察の方から事件の概要が説明されました。そして、被害者の方の傍らに寄り添い、サポートをし続けることの大切さについてのお話がありました。

ご遺族の方は、壇上ではハンカチを握りしめて前を向かれ、声を震わせながら、涙ながらに娘さんと過ごした日々を語られました。一心に夢に向かって進む娘さん、家族思いのかわいい娘さん、シフォンケーキを作るのが得意な娘さん。そんな最愛の娘さんを奪われたご遺族の方の悲しみや絶望。そして、「娘の笑顔、夢と未来を、私たちの生きる希望を返して欲しい。この思いはずっと私が死ぬまで変わることなく続く」というお言葉。事件後には、憶測に基づく話や興味本位の事実とは異なる話が、マスコミやSNSにあふれかえったそうです。ご遺族の方は、そのときのことを「報道、SNSで何度も殺され続けた」と振り返られ、遺族には「知られたくない、そっとしておいてもらう権利」があると訴えられました。

このように絶望され、人との接点を持つことも困難になって心身ともに衰弱なさいったときに、希望の光を見出すことができたのも人との関係だったそうです。同じような境遇の犯罪被害のご遺族の方々や警察官らによるサポートが行われ、理解し合える人たちが寄り添うなかで、思いやりあふれる

優しい言葉が伝えられ、凍りついた心を温かくしてくれたそうです。

今、岡山県下の学生らによる犯罪被害者支援のボランティアの輪が、全国に先駆けて広がっています。ご遺族の方も、そのような支援の輪が広がることで、明るい希望が見えてくるとおっしゃいました。講演のあと、本学犯罪被害者支援のボラン



本学犯罪被害者支援ボランティア学生による活動紹介

ティア学生による活動紹介がありました。今回の講演をきっかけにボランティア活動に関心を持つ学生が増えることを期待しています。

最後に、学生の感想をいくつか紹介します。

「被害者の方やご遺族を苦しめるのは事件そのものだけではないことが分かりました」

「専門職を目指している私にとって、人に思いを寄せるという大切なことをご遺族の方から教わりました」

「いつもどんな状況でも相手のことを感じられる人、考えられる人になりたいと思います」

「専門職だからこそ話をできることもあると思います。苦しいときには応援し、うれしいときには一緒に喜ぶ、そんな誰かの力になれる専門職になりたいと強く思いました」

今回の講演を通じて、苦しい思いのなか、学生のためにと伝えてくださったメッセージは、きっと一人ひとりの学生に受け止められていると思います。ご講演くださったご遺族の方に、改めて感謝を申し上げます。意義深い「保健医療福祉概論」となりました。（医療介護福祉科 辻 真美）



会場の様子



熱心に聴講する学生

## 私の好きな○○

vol. 7

今回は、看護科の学生が「文章表現」の授業で書いた作品から、広報誌編集委員の選考により、優秀賞4点を選びました。友人とのこと、熱くなれるもの、趣味や地元のことなどを通じて、優しさや人間性を感じさせる作品がそろいました。



優秀賞  
看護科2年  
木曾田 遼子

## 私の好きな友人

私には2人の親友がいる。大学時代の友人で、どんなに久しぶりに会ってもまるで昨日の続きみたいに話が盛り上がってしまう。東京で働く2人からある日連絡が入った。岡山に旅行に来てくれるという。岡山は初めてだということだったので、私は地元を存分に楽しんでもらいたい一心で、あれこれ計画を立てて張り切っていた。しかし、旅行は私の想定したものとは全く異なったものとなった。私はやんちゃ盛りの息子を連れており、ゆっくりレストランでしゃべりすることはおろか、観光地にもほとんど行けなかった。おまけに大型の台風までやって来て、夜には全員宿に缶詰め状態となってしまったのである。その時友人は言ってくれた。「観光に来たんじゃない。あなたと息子君との時間を楽しみに来たんだよ」と。まるで魔法のように心がすっと楽になった。夕飯は全国共通の宅配ピザ。待ち時間の何気ない会話もピザも、格別な味わいだった。

川崎医療短期大学



優秀賞  
看護科2年  
杉田 早咲

## 私の好きなカーブ

私は広島東洋カーブが大好きだ。今年、セリーグ2連覇を達成し、これから黄金時代とも言われている。しかし、私は暗黒時代と言われていた昔の弱いカーブも大好きだった。私は広島県出身だ。広島県出身の父と母の影響で、物心ついた時からカーブファンだった。昔、カーブの低迷期を4番として支えた栗原健太という選手がいた。旧市民球場で最後のホームランを打ったのも、マツダスタジアムで最初のホームランを打ったのも、栗原選手だ。連敗が続くチームの雰囲気が暗かったときや負け試合でも、栗原選手のホームランがチームを明るくし、ファンを楽しませてくれた。栗原選手は私の中で永遠のヒーローだ。今のカーブがあるのは、栗原選手のようにカーブの低迷期を支えてくれた選手がいるからだということを忘れてはならない。大学生になり、マツダスタジアムでアルバイトを始めた。これからはスタッフとしてもファンとしても、カーブを見守り続けたい。

川崎医療短期大学



優秀賞  
看護科2年  
吉田 佳沙音

## 私の好きな植物

私は植物を育てることが好きです。種を植え、毎日水をやり、芽が出たときはとてもうれしい気持ちになります。さらに、どんどん大きくなり花が咲いて実が生ると、またうれしい気持ちになり、達成感を味わえます。私の実家には庭があります。ハナミズキや栗の木、アジサイ、チューリップ、ハーブなど、さまざまな植物が植えられています。小さいころから庭の植物たちに水をやったり、新しい植物を買っては庭に植えたりと、植物に触れあっていました。植物は、犬や猫と違い、話しかけ、なで、エサをあげると懐いてくれるというようなことはありません。しかし、土や植物の状態を見て肥料をあげ、周りの雑草や害虫を駆除することで、元気に育ち、花を咲かせて実をつけてくれます。今は寮に住んでいるため庭はありませんが、机の上で小さなハーブを育てて楽しんでいきます。これからもまだ育てたことのない植物や珍しい植物を育てていきたいと思っています。

川崎医療短期大学



優秀賞  
看護科2年  
永井 花歩

## 私の好きな祭り

私は地元の祭りが大好きだ。子ども会が主体となって行う小さな祭りだが、幅広い年代の人たちが神社に集まり、活気にあふれている。その雰囲気がとても好きだ。地元には「灘のけんか祭り」と呼ばれる有名な祭りがある。それには全く及ばないような祭りだ。しかし、私は胸を張って自分の町の祭りを自慢できる。私の町では子どもたちが獅子舞を舞う。これは私の祖父が復活させたものだ。父は祖父から厳しく教わっていたらしく、昔は祭りが嫌いだったそうだ。今では教える立場になり、祭りの保存会まで結成した。体格の小さな子どもたちが重たい獅子頭を持ち、必死に舞っている姿を見て、伝統が受け継がれていると実感する。そんな瞬間が好きでたまらない。子どもの数が減ってきているが、伝統を継承していくことで、地域の輪が広がってけばよいと思う。今年の祭りも全力で励み、楽しい思い出を作ろうと決めている。

川崎医療短期大学

# 同窓会活動

松丘会（川崎医療短期大学同窓会）は昭和50年に設立されました。松丘会には卒業と同時に入会することになります。現在9支部で構成され「活力ある学術団体として社会に貢献し続ける」ことを目指して活動しています。この度の7月の災害に対しても松丘会として支援金を贈りました。これからも、同窓生のつながりを大切に活動をしていきたいと思ひます。何か取り組んでほしいことなどがありましたら、ぜひ松丘会までご連絡ください。

## 看護科支部

看護科（第一看護科、第二看護科、看護科）の同窓生は現在4,724人で、松丘会の中なかでは最も人数の多い支部です。看護科支部の主な活動は、本学の行事への同窓生の参加支援や各期の同窓会の開催支援などですが、もっと各期が交流できるような活動ができれば良いなとひそかに思っています。看護科支部のホームページにぜひお越しください。頻回な更新はできていませんが、先輩たちの様子を垣間見ることができます。



## 放射線技術科支部

放射線技術科支部は今年度末で40回目の新入会員を迎えます。支部の主な活動は各期同窓会開催への協力、ホームページを通じた情報発信です。また、九州・山口地域

に「倉友会<sup>そうゆうかい</sup>」、香川（四国）に「讃岐会<sup>さぬきかい</sup>」という地域支部があり、年1回、総会、セミナー、懇親会等を開催して、同窓生間のつながりを深めています。今後は、医療福祉大学の診療放射線技術学科の卒業生と短期大学同窓会支部とのつながりを作っていくことが大きな課題です。



## 臨床検査科支部

臨床検査科支部では、主に各期同窓会や地域支部同窓会に対する支援などを行っています。また、5年毎に臨床検査科支部全体の同窓会および講演会を開催しており、さまざまな現場で活躍されてきた先輩に講演をしていただいています。大先輩から若い後輩まで、世代を超えた交流を行うとともに同窓生の絆を深める会となっています。



## 医療介護福祉科支部

医療介護福祉科の同窓生はさまざまな就職先で活躍しています。支部では同窓生の活躍の場面がさらに広がるよう、介護支援専門員の資格取得支援などを行っています。最近では、卒業年度を超えた合同同窓会を開催しています。卒業生が世代を超えて交流することによって、介護福祉士としての専門性の振り返りや情報共有をすることができます。今後も同窓生が自身の能力を発揮し、笑顔で活躍し続けられるような支援を行っていききたいと思ひます。



## 医療保育科支部

医療保育科支部は、主に次のような活動をしています。

1. 大学と連携した「医療保育科主催保育者研修会」の共催
2. オペレッタ発表会における観劇と茶話会
3. さまざまな場所で活躍する同窓生による、就職体験の講話
4. 各期や全体の同窓会の援助

卒業後も大学・恩師・同窓生と交流できる場を設け、自身の成長やこれからの医療保育科の活性化につなげてほしいと思ひます。





ホームカミングデーとは、同窓生の皆様に母校に足を運んでいただき、本学の近況を知り、懐かしい恩師や同窓生、在学学生、教職員との交流を深めることを目的としたイベントです。

平成24年から学園祭の1日目に開催しており、今年で7回目となります。今年は5学科最後の学園祭となります。学園祭を盛り上げるため、同窓会として模擬店「炊き込みご飯」を出店することにしました。また、学生ホールで行っていたイベントも体育館で行います。学生の皆さんもぜひ、卒業後の交流の場としてホームカミングデーを活用してください。

ホームカミングデー担当 副会長 曾谷 貴子



地球温暖化対策ワーキンググループだより

No. 41

## 川崎エコアクション



### 原油の単位「バレル」って何??

原油価格のニュースでよく聞く「バレル」。1バレルって、いったい何リットルでしょう。

1バレルは約159Lです。そもそも「バレル」とは、英語で「樽」という意味です。昔、アメリカのペンシルバニア油田では、石油をシェリー酒の空樽（50米ガロン）に詰めて輸送していました。目的地に着いたとき、中身が蒸発や漏れによって、42米ガロンに目減りし、これが現在の1バレルとして、石油の取引の単位で用いられるようになりました。

ところで、日本はアメリカ・中国・インドに次いで世界第4位の石油消費国です。日本では1日に約403.7万バレル（平成28年）、2日間で東京ドーム1杯分の大量の石油を消費しています。これを国民1人当たりで換算すると5.1Lとなります。毎日500mLのペットボトル約10本分の石油を消費することで、現在の豊かな生活を送ることができているのです。限られた資源を大切に使いましょう。（機械室 小河原 勇）

## 新任教員紹介

本学の仲間になった  
教員の方を紹介します。



弘中 藍子  
看護科 助教

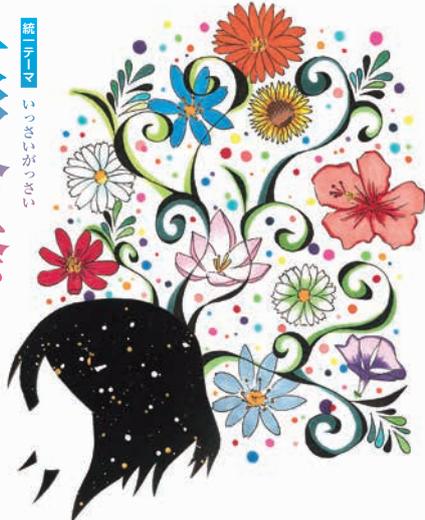
主に臨地実習を担当させていただきます。患者さんとの関わりのなかで、学生の皆さんがたくさんの気づきを得て成長できるよう、自らも学びながら看護教育に貢献していきたいと思っています。気軽に声を掛けてください。

# 第44回 川崎学園祭

2018年  
10月20日(土)・21日(日)

川崎医科大学  
川崎医科大学附属病院  
川崎医科大学総合医療センター  
川崎医療福祉大学  
川崎医療短期大学  
川崎医療短期大学附属看護学校  
川崎医療短期大学附属看護専門学校  
川崎リハビリテーション学院

## 一彩合祭



倉敷市松島 577 番地 <http://www.kawasaki-m.ac.jp/festival/>

## 平成30年度(第44回) 川崎学園祭

《統一テーマ》  
いっさいがっさい  
「一彩合祭」

《コンセプト》  
川崎学園祭は、医科大学、医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院をはじめとする学園の学生、教職員のみならず、病院の患者さんとそのご家族、地域の方々など来場される全ての方々のご理解とご協力のもと、ともに創り上げる学園祭です。

学園祭に集う者一人ひとりの彩が合わさった学園祭を実現したいと考え、このようなコンセプトにしました。

## 主要行事 (10月～12月)

10月	10日	医療保育科3年病児保育実習(～25)
	13日	看護科2年解剖学見学実習 // 第6回川崎学園市民公開講座(本学担当)
	19日	全学科午後休講
	20日	学園祭(～21) // 10月オープンキャンパス(～21) // 第3回公開講座
	27日	推薦入試前期(学生は校内立入禁止)
11月	5日	医療介護福祉科1年介護実習Ⅱ(～22)
	10日	看護科継灯式・保護者会
	25日	推薦入試後期(～26)(学生は校内立入禁止)
12月	26日	看護科2年基礎看護実習Ⅱ(～12/21)
	1日	放射線技術科卒業研究発表会
	8日	臨床検査科研究発表会
	27日	冬期休業(～1/4)

## 平成30年度 第3回 公開講座

入場無料(一般の方の参加をお待ちしています)

講座名 **がんの治療と一緒に緩和ケア**  
～つらい症状や気がかりを和らげる～

講師 大石 昌美  
川崎医科大学附属病院 緩和ケア認定看護師

日時 平成30年10月20日(土)  
10:00～11:30

会場 川崎医療短期大学  
体育館 102教室

お申し込み・お問い合わせ先  
〒701-0194 岡山県倉敷市松島316  
川崎医療短期大学  
公開講座係  
TEL:086-464-1032  
FAX:086-463-4339  
Eメール:koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp



## 平成30年度 第6回 川崎学園市民公開講座

講座名 **介護予防 -はつらつとした老後をおくるために-**

※参加無料  
申込不要  
無料駐車場あり

日時 平成30年10月13日(土) 14:00～16:00

会場 くらしき健康福祉プラザ 5Fプラザホール 倉敷市笹竹180

講演内容 「介護保障の歩み」 本学学長 小池 将文

「フレイル(虚弱)にならないための生活習慣」 本学医療介護福祉科 講師 三宅 美智子

「栄養改善からフレイル予防」

本学医療介護福祉科 准教授 河邊 聡子

「人生をかがやかせる介護福祉士」

本学医療介護福祉科 准教授 辻 真美

お問い合わせ先 学校法人川崎学園 総務部総務課  
〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 TEL:086-462-1111

\*川崎学園市民公開講座\* 本学園では、2015年に倉敷市と包括連携協定を締結しており、医療・保健・福祉を中心に地域振興や防災等を含めた広い分野において、双方の資源を有効に活用した活動を推進しています。その一環として、今年度から倉敷市の共催のもと、地域の方々を対象に「川崎学園市民公開講座」を毎月1回開催しております。本学園の医療と医療福祉のスペシャリストである講師陣が、毎回テーマを変えて、皆さまの日々の健康や医療に関する内容を取り上げ、生活の質の向上に役に立つ情報を提供いたします。第6回は本学 医療介護福祉科が担当いたします。



## 川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(102号)

2018年9月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

河邊 聡子 (医療介護福祉科・委員長)

見尾 久美恵 (一般教養・副委員長)

森本 寛訓 (一般教養)

樹本 朋子 (看護科)

黒住 菜美 (臨床検査科)

天野 貴司 (放射線技術科)

重松 孝治 (医療保育科)

桑田 俊明 (庶務課)

小池 香里 (庶務課・書記)

写真協力: 二葉写真館

印刷: 友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話: 086-464-1032 (庶務課)

Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

## 編集後記

7月の豪雨では、「晴れの国」と言われる岡山にも未曾有の大雨が降り、広範囲に甚大な被害がもたらされました。本学周辺も道路が冠水し、松島の丘から見渡す田んぼは浸水して一面が海のような様子でした。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早く元の生活に戻れますよう、お祈り申し上げます。

今回の特集では、各学科と学生寮の歴史を象徴するようなこだわりの一品を紹介しました。きっと皆さんも、「本学・学科といえばコレ!」という風景・場所・設備等が、それぞれにあることと思います。それらを思いながら本号を手にとっていただければ幸いです。「若きいのち」も本学を代表する一品になれるよう、魅力的な誌面作りに取り組んでいきたいと考えています。

ちなみに、私にとっての本学ならではの風景は、南階段の踊り場から眺める田園風景です。四季を通じて表情を変える田園やその中を走る電車に、しばし足を止め癒やされています。

最後になりましたが、ご多忙の中、執筆にご協力くださいました皆様へ深く感謝申し上げます。

(庶務課 小池 香里)